

事後評価結果（平成21年度）

担当課：関東地方整備局道路部道路計画第一課
 担当課長名：古川 慎治

事業名	一般国道127号 浅間山IC関連	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：千葉県富津市鶴岡 至：千葉県富津市鶴岡	延長	0.4 km		

事業概要

一般国道127号は、千葉県館山市を起点とし木更津市に至る延長約55.2kmの路線であり、南房総地域を南北に縦断する主要な幹線道路である。浅間山IC関連は、館山自動車道に設置される富津中央ICの料金所から国道127号までの間を整備する延長0.4kmのIC関連事業である。

事業の目的・必要性

浅間山IC関連は、館山自動車道富津中央ICへのアクセス向上を図るとともに、君津地域と県内都市部、京浜地域との交流の促進を目的としている。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：H 8年度 都市計画決定： - 年度	用地着手：H 12年度 工事着手：H 13年度	供用年 (暫定/完成)	(当初) / H15年度 (実績) / H16年度	変動	1.1倍
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) / 15億円 (実質値) / 14億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) / 17億円 (実質値) / 16億円	変動	1.1倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	(H 32) /8,000台/日	実績 (暫定/完成)	(H 20) /2,700台/日	変動	-66%
旅行速度向上 (供用前現道 当該路線)		38.2 40.6 km/h (供用前年次) H 16年度 (供用後年次) H 20年度		交通事故減少 (供用前現道 供用後現道)		39 8 件/年 (供用前年次) H 16年 (供用後年次) H 20年	
費用対効果 分析結果 (当初)	B / C	9.5	総費用： 17億円 (事業費： 14億円 維持管理費： 3億円)	総便益： 162億円 (走行時間短縮便益： 125億円 走行経費減少便益： 31億円 交通事故減少便益： 6億円)	基準年： 平成13年		
	B / C	5.7	総費用： 21億円 (事業費： 20億円 維持管理費： 1.4億円)	総便益： 121億円 (走行時間短縮便益： 103億円 走行経費減少便益： 6.4億円 交通事故減少便益： 11億円)	基準年： 平成21年		
事業遅延によるコスト増		費用増加額： 0.35億円		便益減少額： 4.7億円			

事業遅延の理由

用地難航案件への対応によるため。

客観的評価指標に対応する事後評価項目

- ・円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間の削減）
- ・主要な観光地へのアクセス向上による効果等

	その他評価すべきと判断した項目
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目
	その他評価すべきと判断した項目
事業評価監視委員会の意見 さらなる事業評価及び改善措置の必要はないものと認める。	
事業を巡る社会経済情勢等の変化	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 国道127号の安全性向上等の効果が発現されており、さらなる事業評価及び改善措置の必要はないものと考えられる。	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	
特記事項	

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。